＜先週の説教から＞

『ヘブライ㊶ー蛇のように、鳩のように』

武田真治牧師

ヨシュア記 ６：12~27　ヘブライ書 11：30~31

“信仰の章”と呼ばれるヘブライ書の 11 章もモーセと出エジプトの信仰について触れられ、今日はヨシュア記へと進みます。「ヨシュア」という人物はモーセの後を継いで、民の指導者に任じられた人物です。ヨシュア記１章の冒頭から、この若き指導者に対して「強く、雄々しくあれ」と神様からの励ましが記されています。逆に言えば、モーセの後を継ぐことは大きなプレッシャーがあったとも言い得ます。そして次の２章からエリコの戦い（＝エリコの町を侵略して壊滅させる）が始まるのです。この戦い方によって、ヨシュアが本当にモーセの後継者となれるか、彼に民が従っていくかが試される戦いでもありました。長いヨシュア記の中でも、ヘブライ書は特にこの戦いに注目するのです。即ち「信仰によって、エリコの城壁は、人々が周りを七日間回った後、崩れ落ちました。」です。面白いのは、ここにはヨシュアという名前が出てきません、むしろ主語は「エリコの城壁」なのです（翻訳では人々としていますが）。あたかも城壁が「信仰によって（＝神様の命令に従って自ら）崩れ落ちた」と言っているのです。神様のご命令は、人間や生き物だけでなく、城壁や建築物さらには自然界すべてが従うと！まさに、イエス様が「はっきり言っておく。もし、からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなたがたにできないことは何もない」（マタイ 17 章 20 節）と言われた通りです。“信仰によって”エリコの城壁が崩れたのでした。

そして、このエリコの戦いでもう一人“信仰によって”生きた人物が「ラハブ」でした。即ち「信仰によって、娼婦ラハブは、様子を探りに来た者たちを穏やかに迎い入れたために、不従順な者たちと一緒に殺されなくて済みました」です。ヨシュアがエリコ攻略のために、町の様子を探るために送り込んだ「二人の斥候（スパイ）」を自分の家に泊めて、追って から逃がして守ってあげた人物がラハブでした。その代わりに、自分の家族は命を取らないでほしいと。この行動は、神様がエリコを滅ぼすと言われた以上、もはやエリコに未来はない、その上で自分たちの生き残る道はないかと考えて為した行動でした。そこに“信仰”があると言い得るのだと。

面白いのは、彼女はその二人だけでなく、エリコの王様から遣わされた兵士たちが「お前のところに来て、家に入り込んだ者を引き渡せ。」と脅迫された時にも「確かに、その人たちはわたしのところに来ましたが、どこから来たのか知りませんでした。」と「穏やかに迎い入れた」のでした。この世を生きる信仰者が求められる“穏やかさ”は確固とした信仰に裏打ちされるものでしょう。まさに「わたしはあなたがたを（この世に）遣わす。それは狼の群れに羊を送り込むようなものだ。だから、蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい」（マタイ 10 章 16 節）とのイエス様の言葉の通りに！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．２月 22 日（水）20：00
　　Ⅱ．２月 23 日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　教会総会を覚えて
担 当 者：　（水）小草　（木）中澤
祈りに覚える人：　岩佐さん　　上松さん

【教勢報告】

主日礼拝　　男 21　　女　57　　計　78
祈祷会　Ⅰ．男６　女２　計８　　Ⅱ．男２　女８　計 10
日曜学校　　幼稚科 9　小中科 15　　計　24
ハンナの会（２月 14 日(火)）　男２　　女８　　計 10

【次週主日礼拝】　　２月　２６日（日）

聖　書：　詩 編　３０：１～１３
　　ヨハネによる福音書　１１：１～４，１７～２７
説　教：　「詩編㉚―私を引き上げて
　　くださる神様」　武田 真治 牧師
讃美歌：　２９８(1)、３２(1)、４５２(1と2)、
　　２９７(1～3)、８８

【次週当番表】

司式:金刺長老　奏楽:須田　礼拝:茨木長老
献金：上松　歌　　受付：金刺　坂田
会堂準備：大野　勝村　黒澤　西尾
看板：中村　　週報：飯島　　お花：飯島

【次週集会予定】　礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
　　礼拝後：・教会総会(第 78 回)

週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２３年　　２月　１９日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/